

第9回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成29年3月17日（金） 14:00～15:15

2 場 所 鳥取市人権交流プラザ 2階 教養室

3 出席者

(1) 委 員 福島委員長、佐藤委員、佐々木委員、高濱委員、有田委員、景下委員、平尾委員
(順不同) 委員出席者7名

(2) 鳥取市 福島協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任

(3) 傍聴者 なし

4 議 事

協議事項

①鳥取市自治基本条例の見直しに関する答申書について

《事務局説明》

(委員長)

ただ今事務局から、答申書案について説明があった。3ページには、今回の見直しの検討方法と検討結果が簡潔にまとめられているが、具体的に、委員がどのような条項について検討を行ったか、検証してきたかについて4ページ以降に示している。この検討内容は市民自治委員会でも引き継いでいただき、次回の条例見直しの際に、今回の検討内容も含めて意見交換や審議をしていただければと考えている。

また、各条項の審議を通じて委員の皆さんから市政の運営あるいは自治会、地区公民館、まちづくり協議会等について意見をいただいた。これについて答申書案の最後に「その他の意見」としてまとめられている。

これについて、委員の皆さんから追加、修正等のご意見があれば伺いたい。

(委員)

諮問書には、諮問事項として「1 条例各条項が社会情勢に適合しているか」、「2 条例各条項に基づく運用状況の調査」の2点が挙げられていた。答申書案の「検討の結果」の初めの1文が諮問事項1の答えに当たると思うが、諮問事項2に対応する答えが答申書案の中に見当たらない。諮問以降の委員会の中で、自治基本条例施行後の本市の取り組み状況を見てきたので、それが諮問事項2に当たるとはならないかと考えるが、答申書の中に明確に答えを書く必要はないのか。

(事務局)

調査に関しては、4月に配布した「自治基本条例施行後の主な取り組みについて」の資料を用いて見直し検討の中で条項に合わせて説明させていただき、男女共同参画の面で女性登用率が目標を達成できていないなどのご意見をいただいている。

「調査の結果、概ね本条例に則って取り組みが進められているが、中には基準を満たしていないものもあるので、今以上の努力を求む」といった一文を追加させていただくということでしょうか。

(委員)

それでよいと思う。

(委員長)

委員の皆さんもそれでよろしいか。それでは、事務局で追加をお願いします。

その他にご意見はないか。ないようなので、追加以外は原案どおりとさせていただいてよろしいか。

それでは原案どおりとする。

続けて、意見書案について、事務局から説明をお願いします。

協議事項

②参画と協働のまちづくりの推進に関する意見書について

《事務局説明》

(委員長)

ただ今事務局から説明があった。これは各項目について委員の皆さんから寄せられた所見を事務局がまとめたものである。

(事務局)

細かな修正等があれば、3月22日までにご意見をお寄せいただきたいと思いますと考えている。

(委員長)

ここで全てに目を通すことはできないので、後日詳細をご確認いただきたいと思いますと思う。この場で特に意見があればお願いしたい。

この意見書は、例年委員の皆さんからの意見を事務局が取りまとめて作成しているものである。この意見はいかがなものか、というものがあっても、各委員の独立した所見として生かしている。その点について認識いただきたい。

ご意見は特にないようなので、詳細部分については3月22日までに事務局に連絡することとして、それをもって意見書の仕上げとしたい。

それでは、「③ 来年度活動方針、計画等の検討」について、事務局から説明をお願いします。

協議事項

③来年度活用方針、計画等の検討

《事務局説明》

(委員長)

来年度の活動方針、計画について説明があった。私も、参画と協働のまちづくりフォーラムの参加者が少なかったことが気になっている。少なかった原因がテーマなのか時期なのか、それとも会場の設営の問題だったのかということもあると思う。来年度の予算要求はしているということによいか。

(事務局)

平成29年度については予算要求しており、今のところは開催する方向で考えている。

(委員長)

来年度の開催予定地域はどこを考えているか。

(事務局)

過去の参画と協働のまちづくりフォーラムは、鳥取地域と新市域の各ブロックを回っていたが、今回事務局が大きな課題として考えているのは、広報周知期間があまりにも短かったことである。もっと早く知っていれば参加したという声をいただいたので、内容がよければ会場がどこであってもお越しいただけるのではないかと考えている。そのため、現時点では開催地域については特に検討していないところである。

(委員長)

地域というより、テーマと時期が大きく影響するのかなと思う。そのあたりも踏まえ、来年度のフォーラムについて皆さんの意見はいかがか。

(委員)

以前の委員会でフォーラムの検証を行った際、アンケート結果についても検証した。アンケートの回答の中に、「大学生がパネリストとして登壇しているにもかかわらず、大学生の来場者が少なかった」との意見があったのだが、実は、フォーラム当日はまさに試験期間の直前だった。そのため、3年生は10人程度見に来てくれたが、1年生と2年生が来られなかった。7月末や8月初旬だと、学生の動員は難しいと思う。

(委員)

地域でも、多くの地区や町内の納涼祭が7月末から8月頭にかけて開催される。

開催に当たって市役所も動員をかけてはどうかと思う。以前別の事業で、市役所職員の動員を提案し

たところ、市役所は原則動員はかけないと言われたこともあるが、私が所属している連合会では事業の際に動員をかけている。良い話であればいろいろな人に来て聴いてもらいたいと思う。

(委員)

今年の大雪のこともあり、冬の開催も難しいと思う。そういう意味で、今回の7月末の開催は個人的には良かったと思っている。やはり時期的には秋の9月から11月あたりがふさわしいかと思うが、秋は毎週どこかで何かのイベントが開催されていて会場を抑えるのも難しいかとは思っている。ただ、市の開催であれば比較的押さえやすいのではないかと。良い内容であれば、毎週のようにイベントがあっても人は集められると思う。

なお、自治に関するフォーラムなので、せめて地区単位で最低でも5人から10人は参加するようにという動員のかけ方はしてもよいのではないかと個人的には思う。

(委員)

今回のパネルディスカッションは、熱心な人は関心を持つテーマだったのではないと思う。非常に難しく奥の深いテーマであるだけに簡単に答えが出るものではなかった。様々な考えを持った人が自由にいるのが自治会だろうと思うので、その中で答えを出すというのは難しい。

今回のパネルディスカッションでは、「私は反対の意見だ」と発言されていた来場者もいた。ああいう人が集まってくれたことが、価値あることだったと思う。賛成の意見の人ばかりが集まっていたら意味がなかった。開催してよかったと思っている。

時期については、自分自身も忙しい時期というのがあり、今回は動きやすい時期だったのでよかったと思っている。

(委員)

大学生にとっては、あと1週間か2週間早ければちょうど良い時期だった。

(事務局)

平成26年度のフォーラムは秋に開催したが、米鳥間駅伝などいろいろな行事に重なってしまった。西地域で開催したが、参加者も少ない中、またディスカッションという形式ではなく登壇者の話を聴く形式にしたことから、内容はそれなりに良かったと言ってくださった来場者もあったが、反響が少なかったとの総論に至っている。ただ、今回のフォーラムについては、数ヶ月経過した現在でもフォーラムへの意見を寄せてこられる方がいるなど、来場された方には非常に反響のあるものだったと思っている。昨日も、「ああいったフォーラムは、たとえ人が集まらなくても毎年開催しなくてはいけない」とのご意見を持って来庁された方もあった。

今回、開催に当たり、鳥取市自治連合会に動員はかけなかったが、ぜひ参加していただきたいとのお願いはさせていただいた。それを受けて参加してくださった中で、「自治会はボランティア精神、相互扶助の関係性でやっていかなければならない」という昔ながらの自治会のイメージを持って参加された方からの発言もあるなど、ディスカッションらしいディスカッションができたと思う。これにより、お互いがお互いの直面する良い機会だったと思っている。

(委員長)

いずれにしても、次年度の委員会では早い段階でフォーラムの開催について検討するよう、審議の優先順位を上げてもらいたいと思う。

(事務局)

今回のフォーラムは、委員の2年目の任期だったこともあり、前年度から少しずつ下準備ができていた。平成29年度は委員の改選の年に当たるため、7月の開催は困難ではないかと考えている。

(委員長)

私はテーマとしては非常に良かったと思うし、印象として来場者からまちづくりや町内会活動そのものに対する批判的な意見もあまり聴かれなかった。集合住宅等に入居されている方の負担の問題や、役員を押し付けられるといった声が上がったが、町内の皆さんに活動内容や収支などを周知し、公明性のある町内会運営をしていけば、強力な理解が深まるのではないかと考えている。

7月の開催だと、周知期間は短くなると思う。周知期間は必要であり、自治会や地区公民館への参画の呼びかけ期間を長く取れるようにした方がよい。市の財政担当は予算査定に当たり、フォーラムの内容よりも来場者数を気にするだろうと思う。そのあたりも踏まえ、周知期間を取れる時期の開催が良いのではないかとと思う。

(事務局)

内容は、想定以上に良いものになったと自負しており、周知期間が短かったことは大変勿体無かったと思っている。周知期間と委員の改選を考えると、もう少し準備期間がほしいと考えている。それにより、来場者数の増加も見込めるし、内容も少し深いものができるのではないかと考えている。

併せて、現在作成中の協働のまちづくりガイドラインと地区公民館の活用の基本方針と十分にリンクさせたいと考えている。平成29年度に各地域でワークショップを開催したいと考えているが、このフォーラムもそのフィールドワークの一環として、意見をいただき、なおかつ情報を提供して共通認識を持っていける場にしたい。これがまさに協働のまちづくりを進める上で必要なことではないかと考えている。フォーラムがただのイベントに終わることなく、継続していくことで認識が深まっていくとよいと考えているところである。

5 閉 会